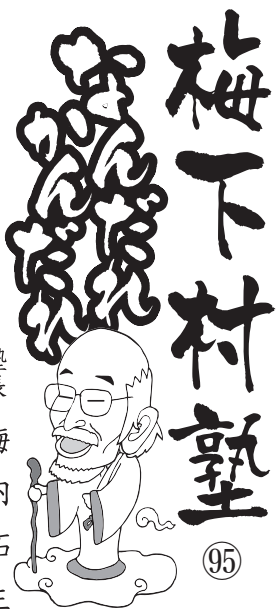


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

何と解へ」

「川柳と解へ」

「その心は？」

「バランスにあり」

現代科学も宗教も、哲学も、宇宙のバランスに關心を向けております。「謎かけつなぎ」と「川柳」は日常生活のスピリット（妖精）ですね。

（東海新報記事から）

3月14日の世迷言には「地球深部探査船「ちきゅう」が、愛知県沖の東部南海トラフ海域で水深約千メートルからメタンハイドレートの採掘に成功、4時間後に水とガスを分離し、点火したそのガスが洋上で赤々と燃えている映像をみて「おらが油井」がついに実現したとの感を深くした」と述べている。

東海新報の第一面には「先行地区」造成着手へ 土地区画整理事業 高田一中北側、住宅に」が掲載されている。いろいろな問題の、いろいろな問題の中から一步一步実践している態度が浮かび上がっている。困難な問題に対するための、覚悟と決断と実践力が如何に大切であるかということである。

佐伯教授は戦後の混乱の中で苦闘した坂口安吾の墮落論に触れながら、徹底した墮落の中から立ち上がることも視野に入れなければならぬという面にも触れている。

返柳
春来れば草木も飛ばし
微粒子も
郵便番号なしでも届く
春の使者
隕石も津波も防ぐ術がない
（黄川田敬子）

返柳
隕石も津波も春の使者
なのか
献立を愛する日もある
貰いもの
こたつから出るに
出られぬ氷点下
（西村千恵）

（春と川柳）
飛ぶようにマスクが売れる流行風邪
春ですれ今日も逢えた
露の臺
（福岡武男）

泣きごとは言つまい
日も陽が昇る
返柳
陽が昇る今日も安堵の
おてんと様
（清水恭子）

故郷を守り続ける神楽舞
見えぬ汗流す喜びだ
である
被災地を優しく包む春の雪
（新沼志保子）

返柳
春の汗故郷守る神楽舞
春には色々な命が動き始めます。お互いに
つぎし合わないように
神様は心配りをして
おられますね。川柳はその
バランスの行役です。

（謎かけつなぎ）
「脱ストレスとかけて

産経新聞の第一面の「日の蔭（かげ）りのなかで 京都大学教授